

| 出題分析 | | |
|---|--|---------|
| 試験時間 90 分 | 配点 ※ | 大問数 6 題 |
| 分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加] | 難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化] | |
| 【概評】 関西学院大学の英語の大問構成は、長文読解 3 つ、文法・語法、和文対照英文整序、会話文空所補充 (全 6 題) という形に落ち着いており、今年もその構成が踏襲されている。長文読解、文法・語法、会話文、いずれも難解な問題は見当たらないが、時間に余裕はなく、全て解き切るには相当の訓練が必要になる。正確な文法・語法の知識が全ての基礎となる。 | | |

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。詳細は入試要項を参照。

| 設問別講評 | | | |
|-------|---|--|-----|
| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
| I | 長文読解 「サンタを信じなかった子ども時代のクリスマスプレゼント」 ○語数：803 語 (昨年) 566 語 | サンタクロースを信じなかった著者の子ども時代のクリスマスプレゼントについての文章。B の同義語句選択の (ウ) の cheap は、「安っぽい」。C の内容一致の選択肢 a. の didn't want to hurt ~ は、本文 3 行目の didn't want us to think we weren't as good as other kids の言い換え。 | 標準 |
| II | 長文読解 「地図の発展の歴史」 ○語数：473 語 (昨年) 445 語 | 地図の作成は、ルネサンス時代以降、技術進歩や新大陸発見等と共に発展したことを述べた文章。C の内容一致では、f. の内容はもっともらしいが、本文最終文で scientific aspects を超えた所に研究の焦点が移っていることが述べられており、誤り。 | 標準 |
| III | 長文読解 「視覚認識と錯覚」 ○語数：413 語 (昨年) 500 語 | 「月の大きさ」に関する錯覚を例に、人間の視覚が脳の解釈に依存していることを説く文章。B の同義語句選択 (ウ) の Otherwise は仮定法と連動しており、「脳による補正がなければ」という文脈上の条件を見抜く必要がある。C の内容一致 a. の It is not the case that ~ は「～は事実ではない」。 | 標準 |
| IV | 文法・語法 | (1) It is a question of time before ~ 「～するのは時間の問題だ」。(2) vigorous debate 「活発な議論」というコロケーション。(8) be awarded for ~ で「～(理由)で表彰される」。(9) in depth 「詳細に」。(10) impossible はふつう人を主語に取れないため、形式主語の it を用いた c. を選ぶ。 | 標準 |

| 設問別講評 | | | |
|-------|---|---|----|
| V | 和文対照英文整序 | 基本的な文法や語法の知識があれば解ける問題ばかりである。(2)と(3)は時制のズレに注意。(5)では日本文を正確に読んだ上で、「かなり多くの」を quite a few, 「いかに少しのこと」を how little と感嘆文で表すことがポイント。 | 標準 |
| VI | 会話文空所補充 「特別な日本のクッキー屋」 ○語数：291 語 (昨年) 304 語 | アメリカからの交換留学生として日本の大学で学んでいる二人の会話。紛らわしい選択肢は少ない。(7)は, to die for で「(そのために死んでもいいくらい)すばらしい」という意味にする。(8)の convinced は, 甘党ではない Zoe に, 甘くないクッキーもあると Noah が伝えて「説得した」, つまり, クッキーを食べることにしたということ。 | 標準 |

| 設問構成 (設問数・形式・内容) | | | | | | | |
|------------------|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 大問番号 | 設問数 | 選択式 | | | | | |
| | | 空所補充 | 同義選択 | 質疑応答 | 内容一致 | 語句整序 | その他 |
| I | 3 | 5 | 3 | | 2/6 | | |
| II | 3 | 5 | 3 | | 2/6 | | |
| III | 3 | | 4・4 | | 2/6 | | |
| IV | 1 | 10 | | | | | |
| V | 1 | | | | | 5 | |
| VI | 1 | 10 | | | | | |

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数 を表している。

| 合格のための学習法 |
|--|
| <p>関西学院大の入試で高得点を取るために最も重要なのは、身につけるのに多大な労力を要する英文読解力を強化することである。そのためにはまずできるだけ早い段階で、理解を重視した、英文を読むための文法を身につけよう。同時に毎日辞書を使って時間をかけて英文を読む生活を始めよう。スピードを気にすると英文読解は身につかない。もちろん市販の単語帳を使って毎日単語・熟語を覚えたり、過去問などを通して文法問題や語句整序、会話文など、関学が出題する多様な問題形式に慣れることも重要だ。しかし英文読解を通して語彙力や文法力を定着させていくという学習方法を基軸としてほしい。</p> |